

組織目標評価報告書（平成29年度）

部局名:

埋蔵文化財調査研究センター

部局長名:

菅 誠治

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	
①-1 目標	①-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
【教育方法・内容】 ・「博物館実習」の授業の一部を分担し、構内遺跡における調査・研究の成果を教育活動に活かす。 ・授業形態は少人数制をとり、自発的な思考や発言を促すことによって、授業内容に対する習熟度をあげる。 【学生支援】 ・「構内遺跡の発掘調査」や「発掘調査報告書の作成」などを業務とする本センターの職場環境を、幅広い分野の学生に提供し、社会性を高めるための教育支援と同時に経済的支援を行う。 【その他】 ・教育・研究の場として、授業や学生の受け入れに努める。	【教育方法・内容】 「博物館実習」の授業を受け入れた。受講生は33名であり、3班に分かれ、1班8～10名の少人数構成で各2日間の授業を実施した。発掘調査が実施されなかったため室内作業のみとなったが、木製品の保存処理あるいは出土種子と貝の分析記録作業を組み込んで内容を深めた。授業の最後に学生全員がプレゼンテーションを行うという課題に対して、3名1チームでクリアするという形をとり、コミュニケーション力の向上を図った。さらに、非常勤職員とともに作業を行うという職場環境の中で、実践型社会連携教育の効果を発揮することができた。 【学生支援】 ワークスタディを利用した学生を2人雇用した。所属学部は農学部と経済学部であり、複数の学部生を受け入れることができた。 【その他】 博物館学の授業を1回受け入れた。
①-2 全学の組織目標との関連	①-2 大学全体への貢献
【教育方法・内容】 ・教育研究の効果的・効率的な「質の向上」に資する(中期計画74～76)目標に留意した教育方法である。 【学生支援】 ・総合的學生支援(中期計画18・19・21～23)に留意したものである。	【教育方法・内容】 「中期目標1-1(目標2)」本センターで実施した授業構成は、教育に関する目標達成のための措置の中で、課題解決型教育・実践型社会連携教育の拡充(中期計画2)あるいは教育方法に関する具体的方策にあるアクティブラーニングの積極的拡充(中期計画5)に資するものである。 【学生支援】 「中期目標1-1(目標8)」ワークスタディを利用した学生雇用は、学生への支援に関する目標に寄与する。
①-3 目標とする(重要視する)客観的指標	①-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
・「博物館実習」の授業は、1班約10名を超えない体制とし、学生全員が発表する時間を確保する。 ・オンゼジョブトレーニングの戦略的経費を獲得する。 ・オンゼジョブトレーニングおよびワークスタディを利用する学生は、複数の分野を対象とする。	・授業は1班8～10名の少人数制を達成した。学生全員が発表する時間を確保し、3名のチームで臨むという形態は、コミュニケーション力を高めつつ授業の習熟度をあげた。 ・オンゼジョブトレーニングの戦略的経費は獲得できなかったが、ワークスタディによって2名の雇用を確保した。所属は2学部で複数の分野の学生が対象となり、目標を達成することができた。
②研究領域	
②-1 目標	②-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
【研究水準及び研究成果等について】 ・構内遺跡の研究推進に向けて、3次元計測機器(FARO)やドローンを使用した新たな測量技術の開発に積極的に取り組む。 ・センター教員の個別研究を推進し、構内遺跡の研究を広く外部に発信する。 【研究実施体制等の整備について】 ・専門的知識・技術を有する特別契約職員を有効に活用し、調査・研究体制の充実を図る。 【国際共同を含む共同研究の状況について】 ・学内の構内遺跡をはじめとする埋蔵文化財の調査研究に関して、国外の研究者との共同研究を推進する。 ・学内の構内遺跡をはじめとする埋蔵文化財の調査研究に関して、異分野の研究者との共同研究によって、世界水準の研究を目指す。 【外部資金の獲得について】 ・全教員が科研費などの申請を行い、外部資金の獲得に努める。	【研究水準および研究成果等】 構内に所在する「鳥山城」の測量にドローンを利用した。航空写真を撮影し、展示会などでも使用した。研究室が実施した墳丘墓の測量に3次元計測器(FARO)を提供し支援した。 ・構内遺跡の調査研究成果を発掘報告書や紀要に掲載した。一般には展示会や公開講座を通じて広く発信した。 【研究体制の整備】 専門的知識・技術を有する特別契約職員1名を雇用し、調査・研究体制の充実を図った。 【国際・共同研究】 異分野の研究者との共同研究は4件(石鍋・須恵器・ポーリング調査等)があげられ、その内3件は学外研究者との連携である。世界水準を視野に入れたものも含まれている。その他に、若手研究者を中心とした国際シンポの開催を通じて、海外研究者と協働の問題についての共同研究を推進した。 【外部資金獲得】 科研費の申請率は100%。その他助成金申請1件を加えると、全体で120%の申請率となった。外部資金の獲得は科研費の代表者2名と分担者3名、その他の助成金獲得が1件あり、その結果、全員が何らかの形で外部資金を得た。
②-2 全学の組織目標との関連	②-2 大学全体への貢献
【研究水準・研究成果等】 【共同研究】知的財産活動の推進(中期計画34・81)・若手研究者の育成事業の推進(中期計画31・41)の目標に留意したものである。 【研究実施体制の整備】 組織の活性化(中期計画13・69)の目標に留意した。 【外部資金の獲得】 外部資金等の獲得の推進(中期計画38・39・79)に留意した。	【研究水準・研究成果】 新たな技術開発や異分野の研究者および国内外の研究者と研究を推進したほか、紀要や学会等で研究成果の発信を積極的に行い、「中期目標1-2(目標11・12)」に貢献した。 【外部資金の獲得】 外部資金を獲得し「中期目標Ⅲ-1(目標31)」に貢献した。
②-3 目標とする(重要視する)客観的指標	②-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
・構内遺跡の調査において、3次元計測機器あるいはドローンを使用した調査を1件以上実施する。 ・研究者の個別研究を、本センター発行の印刷物や展示会、あるいは関連学会で発表する。 ・共同研究事業として2件の研究を行う。 ・専門的知識・技術を有する特別契約職員を有効に活用し、調査・研究の深化をはかる。 ・科研費等の外部資金獲得申請率を100%以上とする。	・岡大構内の鳥山城でドローンをを用いた調査を1件を実施した。 ・調査・研究成果を紀要に5本掲載した。展示会や公開講座を通じての発信は6件を数える。その他に、関連学会での発表は口頭で6件・論文などが8件である。 ・特別契約職員1名を雇用し、研究の深化を図った。 ・科研費を含む申請率は120%で獲得率(代表)は60%である。
③社会貢献(診療を含む)領域	
③-1 目標	③-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
【地域社会との連携、社会貢献について】 ・地域の埋蔵文化財に関する事業に対して指導的な助言を行い、埋蔵文化財行政に寄与する。 ・自治体などが開催する講座や地元の教育委員会の要望に協力し、社会連携を推進する。 ・構内遺跡の調査成果を活用して、地元の小・中学校の教育活動に寄与する。 ・本学周辺地域の「まちづくり」活動に協力し、地域の活力アップに貢献する。 【その他】 ・構内遺跡の研究成果をベースにした明るい話題を社会に提供し、岡大のイメージアップにつながる活動を進める。	【地域社会との連携や社会貢献】 ・県内外の行政機関からの依頼(条例設置審議会合)に応じて指導的助言を行い埋蔵文化財行政に寄与した。 ・岡山県内外からの講師依頼に応じて、社会連携活動を推進した。 ・中学校からの「職場体験」の要請に対して、構内遺跡の調査成果を活かした作業内容を用意し、地元の教育活動に協力した。 ・鹿田学区町内会の「鹿田夏祭り」に参加した。「しかたん」の使用依頼に応じ、出店およびキャラクター出演によって地域の活力アップに貢献した。 【その他】 ・鹿田遺跡のイメージキャラクター(しかたん)の活用に向けた着ぐるみ作成経費獲得のため、クラウドファンディングの立ち上げに努力した。「しかたん」のデザインと名前については、その商標登録を完了した。
③-2 全学の組織目標との関連	③-2 大学全体への貢献
・おかやま地域発展協議体等と通じた積極的な事業展開(中期計画46)の目標に留意した。	【社会との連携や社会貢献】 地域の埋蔵文化財行政における助言・県内外の講師・中学校の職場体験の受け入れなどの諸活動は「中期目標1-3(目標18)」に資するものである。
③-3 目標とする(重要視する)客観的指標	③-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
・自治体主催の委員会・審議会を通じて、年間複数回は埋蔵文化財行政等の問題に助言を行う。 ・岡山市内の中学校が実施する「中学生の職場体験」を年間1校以上、生徒3名以上を受け入れる。 ・小学校の出前授業を1件以上実施する。 ・地域のまちづくり活動に1日以上協力する。	・岡山県内5件・県外3件の審議会・指導会などを通じて、埋蔵文化財行政等への助言を行った。 ・中学校の「職場体験」への協力で2校6名を3日間受入れた。 ・県内外の自治体・民間団体などからの講師依頼3件に対応した。 ・鹿田学区町内会からの夏祭りに1日参加し、「まちおこし」事業に寄与した。

④センター業務	
④-1 目標 【法令順守へのとりくみ】 ・構内遺跡に対して、建築工事に伴う発掘調査や立会調査などを適切に実施する。調査にあたっては、調査の効率化と質の向上に努める。 ・発掘調査報告書作成のため、整理作業を推進し、発掘調査報告書を刊行する。 【定期刊行物の刊行】 ・『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要2016』および『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報』58号と59号を刊行する。 【情報発信】 ・展示会を通じて、発掘調査の成果を学内外に積極的に公開する。 ・公開講座を開催する。 ・大学病院内でイベントを開催する。 ・ホームページの改善を図る。 【遺物の保存・管理】 ・木製品の保存処理を進める。 ・保管遺物について確実に活用しやすい管理体制を構築する。	④-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組 【法令遵守】 ・鹿田遺跡において第27次発掘調査を実施したほか、小規模工事には適切な立会調査で対応した。いずれにおいても調査の効率化と質の向上を図った。 ・報告書作成の作業6件を進め、鹿田遺跡24次調査と同遺跡25次調査他の発掘調査報告書2冊を刊行した。 【定期刊行物】 ・定期刊行物(紀要1冊・センター報2回)を刊行した。 【情報発信】 ・当センター30周年記念特別展示を1月19日～3月4日に岡山シティミュージアムで開催し、これまでの調査・研究成果を学内外へ発信した。期間中に公開講座1回・講演会2回・国際シンポジウム1回を会場で開催した。展示入場者数は延べ1417名、同時開催の講演会に86名の参加を得た。その他に、岡山遺産写真展の募集を行い、会場にて展示した。 ・昨年度から開始した公開講座を、年度後半に計3回開催した。講師は関連科学の研究者と本センター教員で構成した。出土遺物の展示も加えた形態は参加者から好評を博した。
④-2 全学の組織目標との関連 ・法令順守の徹底(中期計画92・93)の目標に留意した。 ・知的財産活動の推進(中期計画34・81)および情報戦略機能の強化(中期計画67・85)の目標に留意した。	④-2 大学全体への貢献 【成果の社会への還元】 展示会・公開講座・印刷物によって「中期目標Ⅰ-2(目標12)」に寄与した。 【法令遵守】 遺跡内における工事に対して適切な対応をとり「中期目標Ⅴ-3(目標38)」に寄与した。 【施設整備】 構内の建物建設に伴う発掘調査を実施し「中期目標Ⅴ-1(目標36)」に寄与した。
④-3 目標とする(重要視する)客観的指標 ・鹿田遺跡の発掘調査報告書を1冊刊行する。 ・発掘調査報告書作成作業を3件以上の調査次に対して実施する。 ・紀要1冊とセンター報を2回刊行する。 ・特別展示会を岡山シティミュージアムで開催し、入館者数は延べ2000人以上を目指す。 ・公開講座を年3回実施し、参加者はトータルで100名以上を目指す。 ・木器処理を1期分実施する。出土遺物の保管状況を年間100箱程度改善する。	④-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況 ・鹿田遺跡の発掘調査報告書を2冊刊行し、目標以上の成果を上げた。報告書作成作業も5件を進めており、目標を上回る。 ・特別展示会を岡山シティミュージアムで開催した。入場者数は1417名であり、やや目標値を下回ることとなったが、全体に好評であり、有料化の影響などを考える上で貴重なデータを得ることができた。 ・公開講座は年間3回開催し、参加者は合計121人で目標値を上回った。 ・木器処理は1期分を実施した。
⑤管理運営領域	
⑤-1 目標 【部局運営体制の改善強化について】 ・埋蔵文化財調査研究センターの運営委員、調査研究専門委員を新たに選出し、運営面・研究面の強化を図る。 【部局組織の活性化について】 ・専門的知識・技術を有する特別契約職員を有効に活用し、組織の活性化を図る。 【ダイバーシティの推進(女性教員・外国人教員比率・次世代育成支援等)について】 ・女性研究員の雇用を積極的に進める。 【効率的・戦略的な予算配分・執行について】 ・本センターが年間に使用する研究費の一部を、構内遺跡の研究成果の発信にとって効果的な特別展示会に重点的に配分する。 【安全衛生に対する配慮について】 ・安全衛生担当委員を中心に、周知徹底を図る。 【施設整備の推進について】 ・資料保管のための収蔵スペースを確保する。 【法令遵守の徹底について】 ・様々な法令順守を徹底するために、毎月の会議で随時注意喚起を促す。 【地球環境への負荷に配慮】 ・省エネの意識を高め、電力消費量の節減を推進する。 【その他】 ・大学博物館構想に向けて、センター業務の将来像について具体的な検討を進める。	⑤-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組 【運営体制の改善】 ・運営委員会および調査研究専門委員を新たに選出し、運営面・研究面の強化を図った。 【組織の活性化・ダイバーシティの推進】 ・特別契約職員として、専門的知識・技術を有する女性研究者を雇用した。 【効率的・戦略的な予算配分・執行】 ・運営費の一部を特別展示会の予算に配分し、研究成果の発信に重点をおいた。 【安全衛生に対する配慮】 ・安全衛生担当委員を中心に、周知徹底を図った。 【施設整備の推進について】 ・ストックハウス1棟を建て、資料保管のための収蔵スペースを確保した。 【法令遵守の徹底について】 ・様々な法令順守を徹底するために、毎月の会議で随時注意喚起を促した。 【地球環境への負荷に配慮】 ・省エネの意識を高め、電力消費量の節減を推進した。 【その他】 ・本センターの将来構想である大学博物館構想に向けて、大学院社会文化科学研究科と連携した新研究所構想に参画した。 ・特別展示会・講演会の有料化を実施し、自己収入増加の可能性を探る試みを実施した。
⑤-2 全学の組織目標との関連 ・組織の活性化(中期計画13・69)に留意した。 ・ダイバーシティの推進(中期計画42・70)に留意した。 ・効率的かつ戦略的な予算配分と経費節減(中期計画82)に留意した。 ・法令順守の徹底(中期計画92・93)に留意した。 ・施設の長寿命化及び地球環境への負荷に配慮したキャンパス整備(中期計画87)に留意した。 ・危機管理体制の充実(中期計画89)に留意した。	⑤-2 大学全体への貢献 【研究者の配置】 女性研究者を特別契約職員として採用し「中期目標Ⅰ-2(目標16)」に寄与した。 【組織運営の改善】 大学院社会文化科学研究科と連携した新研究所構想を推進し「中期目標Ⅱ-1(目標27)」に寄与した。 【自己収入の増加】 特別展示会・公開講座の有料化によって「中期目標Ⅲ-1(目標31)」に寄与した。 【安全管理・法令遵守】 毎月の会議などの場を利用して意識の向上に努めるなど「中期目標Ⅴ-2(目標37・38)」に寄与した。
⑤-3 目標とする(重要視する)客観的指標 ・全学教員から調査研究専門委員を新たに2名選出する。 ・資料保管のための収蔵スペースを約10㎡以上確保する。	⑤-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況 ・全学教員から調査研究専門委員を新たに2名選出した。 ・資料保管のための収蔵スペースを約10㎡確保した。
【総括記述欄】	
<p>センター長・運営委員の交代で運営体制に変化が生じたが、事務局との連携で滞りなく業務を進めた。センター業務では、発掘調査1件を実施した上で、予定通りに報告書作成作業と発掘調査報告書2冊を刊行した点は大きな成果である。研究面では文理融合をベースにした研究を進め、紀要に報告5本を掲載したほか、初めての国際シンポジウムの開催は特筆される。いずれも、将来を見据えた研究として評価される。その他の研究発表や論文掲載は目標値を上回る。調査研究成果の発信では、特別展を岡山シティミュージアムで開催したほか公開講座を年3回実施した。特に、展示会はマスコミ6件に取り上げられ、岡大構内遺跡が地域にとって魅力的な資産であることをより一層印象付けた。運営面では、講座・展示会の参加・見学の有料化やクラウドファンディングの立上げ等の取り組みがあげられる。いずれも大学の会計処理の枠組みに収まりにいな、事務局の協力で前者を実現した。その他に「しかたん」の商標登録を完了した。組織面では、本センターの博物館構想に合致する大学院社会文化科学研究科の新研究所構想に参画した。本年は、各業務領域に対して挑戦的な取り組みを行うこととなり、オーバーワーク気味のなかで目標が未達成の部分も多少あるが、将来に向けての可能性を探ることができた点で有意義な1年と評価したい。</p>	